

「ママが何度言ってもあなたが変わらないなら、離れてみる？」
母にそう言われた数日後、私は銀上学園へ見学に行きました。通っていた小学校を早退して、父と母と三人で銀鏡へ向かいました。道中、私は、「どんなところだろう？」とワクワクした気持ちでした。あまり通ったことのないくねくね道を行き、小学校へ到着しました。学校を見て、私は、「どこがどうなっているのだろう？」と思いました。それから、教頭先生が学校を案内してくださいました。教頭先生は、校内の案内はもちろん、実際に通っている在校生の声も聞かせてくださいました。「山村留学してどう？」そう教頭先生が尋ねると、「えー、もう何というか、絶対に来た方がいいよ！何て言えば分からないけどとっても楽しい！里親さんのご飯も美味しいし、地域の方々が色々企画してくださって、毎日があっという間に終わるよ!!あっ！でも何もないから、お菓子は実家に帰った時に大量に買って来ないとだめだよー!!」と話してくれた生徒たち全員の目が、とてもキラキラ輝いていたことに私は衝撃を受けました。私の思っていた山村留学のイメージとは違っていました。本当に楽しいんだろうな。そして私は、「行きたい！」と思いました。しかし、もちろん迷いや不安もありました。例えば修学旅行がないことや、大好きな習い事を辞めること、クラスメートがいなくてマン・ツー・マン授業になることなどです。」見学に行った翌日、母にどうしたいのか聞かれました。「行きたい！」と決心して伝えました。父も母も少し驚いている様子でしたが、「自分で決めれるなんてすごい！なかなかできない体験だから、とても自分のためになるよ！じゃ、早速明日から手続きを始めるね。」といてくれました。私は、決心したものの、少し寂しい気持ちにもなりました。なぜかと言うと飼っているインコと会えなくなるからです。しかし、不思議と家族と離れることには寂しさを感じませんでした。

後日、先生に転校のことを話してもらった時、クラスメートのある男子に「山村留学をして、家族は悲しまないの？」と聞かれたこともありましたが、私は、それよりも、山村留学が楽しみでたまりませんでした。

こうして、私の山村留學生活は始まりました。私の里親さんの所では、中1と中2の女の子が一緒です。初日はとてもドキドキしていましたが、すぐに馴染むことができました。里親さんはとても優しく、毎週のように遊びに来るお孫さんとも仲良くなりました。お孫さんは、私の妹と名前も学年も同じなので、ここにも妹ができたみたいです。平日は、楽しくしゃべりながら、宿題などをして過ごし、休日は、たまに地域の方が企画して下さるイベントに参加して過ごしています。

学校での生活は全てと云っていいくらい変わりました。

私は、もともと人数の多い学校に通っていたため、こんなに少人数になってみて、「全校生徒や先生方との距離が近くなるとは、こういうことなんだな。」と思いました。もちろん、マン・ツー・マン授業になり、寂しく感じることもありますが、他の学年と一緒にいる活動も多々あり、とても楽しいです。また、山菜採り体験や環境教室など今までになかった授業もたくさんあって、とても充実しています。先生方との距離もだいぶ縮まり私にとっては最高の学校です。

山村留学に来て、自分が変わったところは、今、自分の言ったことや行ったことが、相手を傷つけていないかなどと考えるようになったところ、前よりも感謝や挨拶ができるようになったところです。私は、今がとても楽しいです。これも、一緒に過ごしている方や、家族のおかげだと思っています。とても恵まれているなと思いました。留學生活が始まってまだ四ヶ月くらいしか経っていませんが、残りの生活もここでしかできないことを思う存分楽しんで、将来に生かしていきたいと思います。